

北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門

井戸 崇史 (READY OR ORDER)

所在地 北区東十条2-13-4

電話 03-3911-3097

ホームページ <http://www.readyororder.jp/>

受賞の概要

井戸崇史さんは祖父の代から革加工の仕事を営む家に生まれました。井戸さんは革加工の仕事を受継ぐ気持ちが強く、革製品のメーカーに就職し、ハンドバックや財布などのパーツやサンプルの製作に携わり、革加工の技能とデザインを学びました。

家業に戻った井戸さんは、革加工の仕事をする傍らで、自らのブランド「READY OR ORDER」を創設しました。革職人が企画し製作する READY OR ORDER の財布はデザインと使い勝手の良さが両立し、次第に評判が広がりました。その後、編集者の目に止まり著名な情報誌で紹介され、これが切っ掛けとなり、READY OR ORDER は広く支持を得るようになりました。

井戸さんは、革製品の付加価値の基はデザインと品質、そしてオーダーメイドであることと考えています。READY OR ORDER の特徴は、使い勝手から発想したデザインであり、品質については「職人の業物」という発想ではなく、「均質で丈夫なものをつくる」という工業製品としての品質を追求したいと言います。

高い品質の革製財布を安定して製作するために、組織的で効率的な革財布工場をつくりたいとも言い、そのための布石として若手職人の育成にも努めています。



作業風景



オリジナルの財布・名刺入れ



北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門

岩渕 裕司 (ニューコーゲイ株式会社)

所在地 北区西ヶ原 4-27-13NKビル

電話 03-3576-8611

ホームページ <http://www.newkogeij.jp/>

受賞の概要

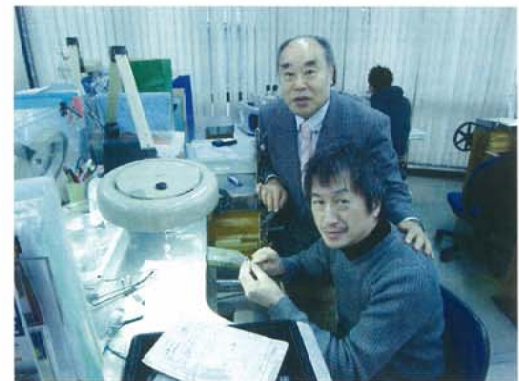
岩渕裕司さんはニューコーゲイで宝飾品細工に携わっています。同社は老舗の宝飾品店を取引先に持つ業界トップクラスの技能を持つ企業です。テレビ番組で取り上げられたダイヤモンド 167 カラット、1867 ピースを敷き詰めた 2 億円のプラチナ製ビジュバックが同社の作品例として有名で、宮内庁御用達の宝飾品も製作しています。

岩渕さんは宝飾品細工の世界に入り、初めは量産品の成形や彫金の仕事に携わったのち、27 歳のときに独立しました。そして岩渕さんの仕事がニューコーゲイの西田社長の目にとまり、同社に入社しました。岩渕さんはニューコーゲイに入社した当時を振り返って、「ニューコーゲイの仕事はそれまでと比べ、デザインや仕上がりが数段上だった。カルチャーショックを受けた」と言います。繊細な仕上げができるよう精進し、ジャパングジュエリーコンテスト労働大臣賞をはじめ業界団体が主催するコンテストで多数の賞を受賞するまでに技能を高めました。

宝飾品には鑄造で製作するものもあります。その原型づくりはデザインを際立たせるとともに、製作工程をイメージする独特の技能が必要で、岩渕さんの秀でた技能の一つでもあります。



作業風景



西田社長と岩渕さん

北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門

中島 康敏 (株式会社田中医科器械製作所)

所在地 北区田端新町 2-14-18

電話 03-3894-7700

ホームページ <http://www.e-tanaka.co.jp/>

受賞の概要

手術器械製作を営む家に生まれた中島康敏さんは父からヤスリ、ハンマー、カッターを用いて器械をつくる技能、材料を見る目と焼入れの技能を徹底的に叩き込まれたといえます。

手術器械は身体の特定の部位を「掴む」、「切る」、「持ち上げる」ことが基本機能であり、癖なく基本機能を果たす手術器械を作ることが肝心です。しかし、器械を使う医師の感覚は千差万別で、医師それぞれの感覚に合わせて、例えば「豆腐を傷つけないで持ち上げるように」と要望されれば、そのように調整できる技能の感覚を磨くことが必要だといえます。前例のない器械を製作する場合、医師の描くポンチ絵を見て動作をイメージして器械の基本機能を果たせるものかどうかを見抜く力を養えれば一人前と中島さんは言います。

このような技能を涵養した中島さんは、田中医科器械製作所の専務取締役技術部長として手術方法に応じた様々な器械を開発、製作してきました。切削加工など中間工程の機械化、ISO9001 と 13485 の取得、40 品目 7000 種に及ぶ製品の受発注システムの構築などにも主導的な役割を果たし、同社の発展に寄与してきました。



作業風景



特殊形状とスムーズな動きで使いやすいYケリソンパンチ

北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門 若者枠

井家 奈津子 (電子磁気工業株式会社)

所在地 北区浮間 5-6-20

電話 03-5970-8681

ホームページ <http://www.emic-jp.com/>

受賞の概要

井家奈津子さんは大学で物理を学び、電子磁気工業では非破壊検査装置の開発に携わっています。同社は世界でも有数の非破壊検査装置メーカーです。

井家さんはこれまでに 7 機種の開発に携わってきました。最初に手掛けたのは焼入れ深度計と焼入れ判定器です。焼入れは、鉄などの硬度を高めるために熱処理するもので、工業製品の性能や安全性を高めるには不可欠なものです。井家さんが開発した焼入れ深度計と判定器は、焼入れの可否を判定するものでしたが、測定精度が安定している製品はなかったといいます。同社は電気信号を増幅してノイズの影響を無くす方法で焼入れ深度計の製品化に成功しました。これは井家さんのアイデアによるものでした。この他にスポット溶接検査器、金属材料の材質判別や熱処理の良否判定などに使われる異材選別器などの開発にも携わってきました。

井家さんは「やりたいことを自由にやらせてもらって開発した製品がユーザーに使われるようになるのが楽しく、やりがいがある」と言います。業界の研究会や学会に参加したり、非破壊試験技術者資格の渦流探傷試験・レベル2と磁粉探傷試験・レベル1を取得するなど技術の向上にも熱心です。



焼入れ判定器で歯車の焼入れの深さを測定



左からガウスメータ、フラックスメータ、焼入れ判定器

北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門 若者枠

猿田 和弘 (株式会社田中医科器械製作所)

所在地 北区田端新町 2-14-18

電話 03-3894-7700

ホームページ <http://www.e-tanaka.co.jp/>

受賞の概要

猿田和弘さんは、外科手術用の器械を製造販売する田中医科器械製作所で手術用器械の製作や開発に携わっています。

手術用器械製作の基本はヤスリとハンマーの使い方にあるといいます。猿田さんは学生時代に同社でアルバイトをした際、道具の使い方を教わると、ヤスリとハンマーを巧みに使い、製造の補助ができるようになり、卒業後はその勤と腕の良さを買われて同社に入社しました。

手術用器械製作の仕事に就いた猿田さんは、めきめきと頭角を現し、製作が難しい器械に次々と挑戦していきました。田中医科器械製作所は様々な手術方法に応じた器械を開発しており、猿田さんは多くの器械の開発を担当してきました。その1つに「内視鏡下脊椎手術システム」用の鉗子があります。3～4mm 径のパイプに通す精密な鉗子で、手術を容易にするため先端が曲がる機構も現在開発中です。この手術方法はヘルニアの患部を内視鏡で見ながら、患部に向けて通した3～4mm 径のパイプに鉗子の先端部を通して患部を切除するもので、入院せずに手術を受けられるため急速に普及しています。

猿田さんは2013年秋に新設された第二工場の責任者として後進の指導にも当たっています。



作業風景



内視鏡下脊椎手術システム

製品群にないアイテムを製品化

北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門 若者枠

本田 達也 (木工房藤澤株式会社)

所在地 北区堀船2-3-12

電話 03-3911-4692

ホームページ <http://www.mokkobo-f.com/>

受賞の概要

本田達也さんは専門性を活かして自分でものをつくり上げる仕事に就きたいと専門学校の建築科で学びました。その後、木製建具や家具を製作する木工房藤澤に就職し、念願が叶いました。本田さんは面接の際に同社の藤澤会長に「飽きっぽかったら駄目だよ」と言われたのが心に残ったと言います。

本田さんは同社に入社した後、会長の言葉を思い出しながら、根気よく技能を一つ一つ覚えて、自分で工夫できるようになるのを心掛けたと言います。木工房藤澤は、機械化が可能な作業は機械に置きかえて効率化を図っていますが、最後は和物建具の技能で仕上げるのをモットーにし、鉋(かんな)の刃を自分でつくれるようになることを提唱しています。本田さんは木工機械の使い方を覚え、自分の鉋の刃をつくって仕上げができるようになるために技能の習得に努めました。そして入社後5年もすると、機械の使い方と仕上げの手仕事、現場での取付けにも自信がついて、一つの仕事を一人でまとめられるようになりました。

藤澤会長は、本田さんがこれから入社してくる若手を引っ張っていく存在として期待しており、本田さんはこれに応えるため、建具技能士の合格を目指しています。



作業風景



リビングTV台壁面収納